



拡張的学習の視点で構成した小中一貫教育カリキュラムについての基礎的研究：
姫路市小中一貫教育標準カリキュラムを事例に

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2016-03-30 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 橋本, 忠和 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.32150/00006415

拡張的学習の視点で構成した小中一貫教育カリキュラムについての基礎的研究

— 姫路市小中一貫教育標準カリキュラムを事例に —

橋本 忠和

北海道教育大学函館校美術教育研究室

Basic research of the curriculum for Educational continuity from primary through early secondary levels which consist of the viewpoint of Expansive Learning.

— The Case of the standard curriculum for Educational continuity from primary through early secondary levels in Himeji-city. —

HASHIMOTO Tadakazu

Department of Art Education, Hakodate Campus, Hokkaido University of Education

概 要

平成27年6月の小中一貫教育制度の導入に係る学校教育法等の一部を改正により、今までの以上に小中学校接続のギャップを縮小し、スムーズな連携を構築しようとする小中一貫教育実施のための「各教科別に9年間の系統性を整理した一貫カリキュラム」の編成と充実が必要になると思われる。そこで、筆者が作成委員として参加した平成23年1月発行の「姫路市小中一貫教育標準カリキュラム 図画工作科・美術科編」を対象に、そのねらいや構造、作成手順を分析することで小中一貫教育カリキュラムを構想する基礎となる学習理論や編成手順等を考察した。すると、カリキュラムは9年間を分割した、各時期において育てたい力や指導のポイントを明確することが重要であること、また、中期（小学5年から中学1年）の小中相互の学びを拡張して接続させる際、エンゲストロームの「拡張的学習」理論が基礎理論として役立つ可能性が見いだせた。

1 はじめに

平成27年6月の小中一貫教育制度の導入に係る学校教育法等の一部を改正により「義務教育学校」が新たな学校の種類として設けられた。

同法が平成28年度から施行されることにより、今までの以上に、「中1ギャップ」等解消につながる学力・生徒指導等のギャップを縮小し、スムーズな連携による小中一貫教育実現に向けた学校教育制度の多様化及び弾力化が推進されると思

われる。平成27年7月の文部科学省からの通達では、改正法第49条の7「義務教育学校の教育課程」に関する留意事項の中で「小中一貫教育の円滑な実施に必要となる9年間を見通した教育課程の実施に資する一定の範囲内で、設置者の判断で活用可能な教育課程の特例を創設すること」¹⁾が予定されていることを伝えている。

この通達の背景には、平成26年度に文部科学省が小中一貫教育を行っている市町村（1130箇所）を対象に実施したアンケートの中で、「各教科別に9年間の系統性を整理した一貫カリキュラムの編成」の実施率が52%²⁾だったことがあると思われる。従って9年間を見通した小中一貫教育カリキュラム作成は今後の小中一貫教育や小中連携教育実施を予定している学校において、その編成と充実が強く求められると考えられる。

ただ、先の調査において小中一貫教育を実施している市町村が1割程度³⁾の状況から考えると、小中一貫カリキュラムに関して学習指導要領の内容項目を網羅し、且つ系統性・体系的に配慮しつつ、地域の実態に応じた9年間のカリキュラムの編成は、幾例かの先行事例があると言いながらも、各市町村の学校現場においては負荷のある難しい作業になることが予想される。

そこで、本研究は筆者が作成委員だった平成23年1月発行の「姫路市小中一貫教育標準カリキュラム：図画工作科・美術科編」を対象に、小中一貫教育カリキュラムのねらいや構造、作成手順を分析し、カリキュラムの基本構造を構想する基礎となり、学校の制度的境界を越境し、スムーズな学びの接続を実現する学習理論や編成手順等を考察していく。従って本研究は上記の分析・考察を通して「拡張的学習」理論と小中一貫教育カリキュラムの接点を明らかにし、カリキュラムを構想する際に、その理論が役立つに可能性を探る基礎的研究となっている。

2 姫路市小中一貫教育標準カリキュラム

(1) 小中一貫教育の意図

小中学校義務教育の9年間を見通した計画的・継続的な学力・学習意欲の向上や「中1ギャップ」への小中連携した対応といった観点から、地域の実態に対応した小中一貫教育の取組が全国的に進められている。

この小中一貫教育と小中連携教育について文部科学省は「小中一貫教育の制度化及び総合的な推進方策について（審議のまとめ）」の中で以下のように定義している。

①【小中連携教育】

小・中学校が互いに情報交換を行うことを通じて、小学校教育から中学校教育への円滑な接続を目指す様々な教育。

②【小中一貫教育】

小中連携教育のうち、小・中学校が目指す子供像を共有し、9年間を通じた教育課程を編成し、系統的な教育を目指す教育⁴⁾。

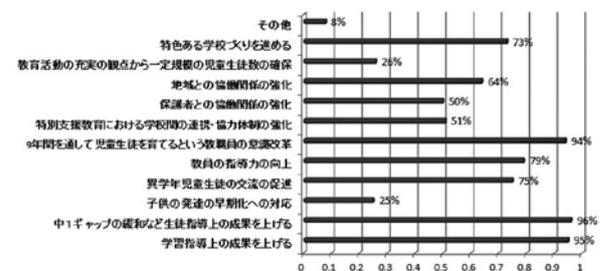


図1 小中一貫教育のねらい（複数回答）⁵⁾

この2つの形式で小中学校の接続が求められた背景として平成26年の「中一貫教育等についての実態調査」（図1）によると、地域や児童生徒の実態を踏まえ、小中一貫教育に取り組む自治体のねらいは多様である。そのねらいの中でも、「学習指導上・生徒指導上の成果」・「異学年児童生徒の交流の促進」・「9年間通じて児童生徒を育てるという教職員の意識改革」⁶⁾を掲げている自治体が多い⁷⁾。

全国的な小中一貫教育への取り組みに先行する

ように、兵庫県姫路市では平成18年度から市の教育の抜本的見直しを図り、平成20年度12月に策定した「魅力ある姫路の教育創造プログラム」の主要事業の一つとして小中一貫教育を「異校種間連携強化プログラム」の中に位置づけた。そして市として小中一貫教育で目指す先を「学力の向上」と「人間関係力」と定め、その教育の定義を以下の3要素を満たした教育活動とした。

- ・小中共通の教育目標（各校の定める学校教育目標ではない）の設定
- ・9年間を見通した一貫した指導
- ・小中教職員による協働実践⁸⁾

この3要素の中の「小中教職員による協働実践」は、先に示した実態調査における各自治体のねらいの中の「教職員の意識改革」に通じると思われる。この協働実践に関わる教職員の意識が小中一貫教育実現への1つの課題になっていると、千葉大学の天笠茂は指摘する。その意識とは「縄張り意識」である。この意識について天笠は以下のように解説している。

「小学校は6年間だけを見て卒業後は中学校の責任と言う。中学校は3年間だけを見て入学以前は小学校の責任だと言う。縄張りのように小学校と中学校が此までのお互いの役割に留まり、その範囲でなんとかしようとしている」⁹⁾

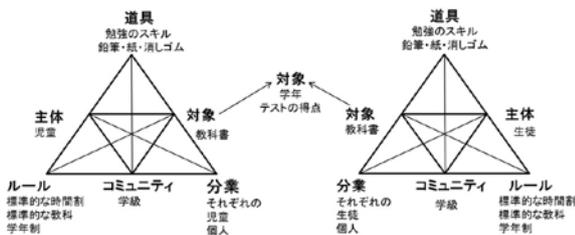


図2 伝統的な生徒と教師の学習システム¹⁰⁾

活動理論を研究するユーリア・エンゲストローム（以下「エンゲストローム」と表記）は、教師が行う仕事を「教えること」、生徒が行う仕事を「通学すること」として、図2のような伝統的な構造の学習システムを示している。

この図における教師は、学校の縄張りの中でク

ラスの学力平均点向上やクラブ活動の好成績という高い成果を得ることに翻弄され、従来からの考え方や役割に固執し動きがとれず、異校種連携にまで意識の向かない教育活動の構造に通じていると考えられる。

この活動構造について、エンゲストロームは以下のように述べている。

「この活動構造がもたらすのは、学校外の経験や認識から遮断された学校での学習カプセル化である」¹¹⁾

眼前の一元的な成果を求める余り、異校種や学校を取り巻く多様な他者との交流、そして、個々の子どもの持つ経験や願いを生かさなない「学習のカプセル化」の状態では、姫路市の小中一貫教育が目指す「社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していくための学力や人間関係力」を培うことはできないと考えられる。

そうした、教職員の一貫教育への意識変化を促し、教育現場において「9年間を見通した一貫した指導」を実現するために平成21年度に初版、平成23年度に改訂版を作成したのが「姫路市小中一貫教育標準カリキュラム」である。

次に、そのカリキュラムの全体構想と構造を整理する。

(2) 姫路市小中一貫教育標準カリキュラムの全体構想と構造

姫路市小中一貫教育標準カリキュラム(第2版)では、小中一貫教育を「中学校ブロックで、共通の目標（めざす子ども像）、指導内容及び指導方法が義務教育9年間を貫いて設定され、実施される教育」¹²⁾と定義している。

すなわち、姫路市では小中一貫教育を究極の小中連携教育と捉え、現在、各中学校ブロックで取り組んでいる連携を入り口に、ブロックのニーズや実情に応じて協働実践の内容を深めたり、ステップアップさせたりしながら、9年間（就学前を視野にいと11年間）を見通した指導で子どもの育ちと学びの適宜性と連続性を保障し、児童・生徒一人一人の豊かな学びへと繋がる教育と

実現しようとしている¹³⁾。

そして、平成28年度からの制度改革施行を視野に入れつつ、以下の形態の一貫教育モデルを設定している¹⁴⁾。

・隣接型モデル

同敷地内小中学校があるという施設メリットを生かした合同研修会、交流活動、教科学習、授業交流（異校種の教員が授業）等の実践。

・分離型モデル（標準型）

一つの中学校に複数の小学校から進学する形態で児童の中学校一日登校、一貫した学習規律の作成、小中教職員による出前授業、一貫教育日より作成等の実施。

さらに、姫路市は小中一貫の構成要素としている「9年間を見通した一貫した指導」を隣接型・分離型モデル校において実現するために平成21年度から「小中一貫教育標準カリキュラム」を作成し、それを活用した取組みを進めている。

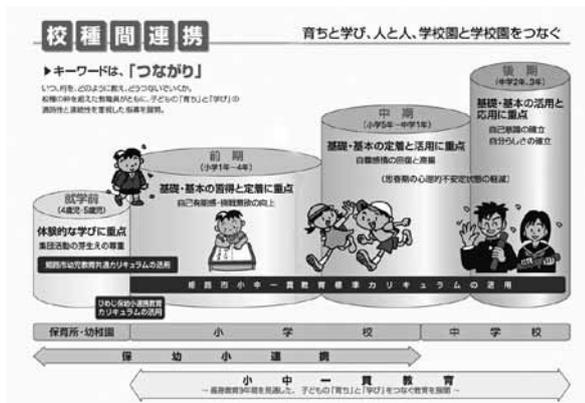


図3 姫路市の校種間連携の構造¹⁵⁾

この姫路市小中一貫教育標準カリキュラムは、平成19年7月小中学校教員や指導主事からなる作成委員会を学識経験者に助言を受けながら、国語、社会、算数・数学、理科、外国語活動・外国語（英語）、道徳、総合的な学習の7教科（領域）の部会に分かれて教科の特性に応じたカリキュラムが平成21年度に制作され、平成23年度版からは図画工作・美術も含めた全教科・全領域を網羅したカリキュラムが整備された。

その最大の特徴は、「義務教育学校」の学年分

割の設定に通じる、6・3制の教育課程を編成しつつ、義務教育9年間を前期4年、中期3年、後期2年に区分し、子供の発達段階を重視した上で、学習の系統性や連続性を保証する構造を構想している点にある。

姫路市独自の構想のポイントを整理すると以下のようなになる¹⁶⁾。

- ① 4・3・2（前期・中期・後期）区分で「育ち」と「学び」を捉え、重点ポイントを明記
 - ・前期＝基礎・基本の習得と定着
 - ・中期＝基礎・基本の定着と活用
 - ・後期＝基礎・基本の活用と応用
- ② 姫路市の教育課題を踏まえて「姫路らしさ」を可能な限り織り込む
 - ・市特有の資産（文化遺産・地場産業）の活用
 - ・市のビジョン（学習内容の系統性や適宜性、連続性の重視）に基づいた構成
- ③ 3部構成のカリキュラム
 - ・全体構想版＝教科・領域を網羅・集約する。
 - ・領域別集約版＝教科（領域）に系統性や繋がりを重視する上でのポイントを集約する。
 - ・詳細版＝領域別集約版に記載しきれない内容や、より実践化を図るための内容を、各教科（領域）において独自のフォームで示す。「図画工作科・美術科」においては領域毎に実践事例を示す。
- ④ 各校の特色を加えて活用
 - ペーパー版に加えて、第2版からは、SSA（教員用情報共有システム）にコンテンツが配信されており各校の特色に応じて内容を加え、発展型として利用することができる¹⁷⁾。

(3) 図画工作科・美術科版カリキュラム委員会と その方針

平成21年5月27日に第1回カリキュラム作成委員会が開かれ、委員会構成（図4）や作成スケジュール（図5）が説明された、そして、以下の構成等で図画工作科・美術科版カリキュラム作成委員会が形成された。

・任期・・・平成21年5月から23年3月

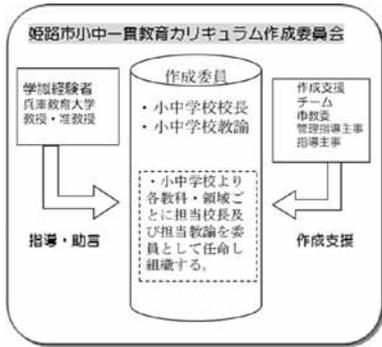


図4 カリキュラム作成委員会の構成¹⁸⁾

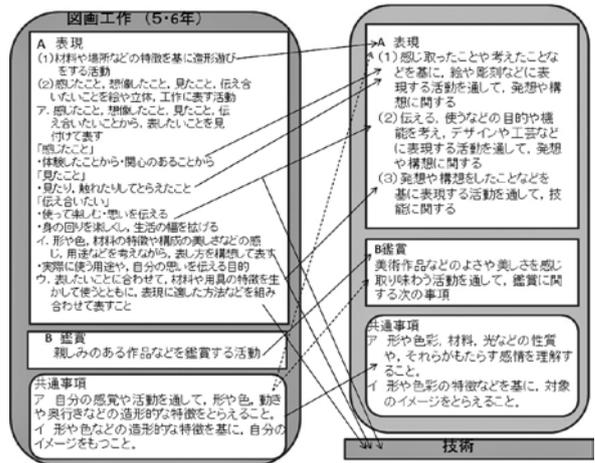


図6 小中学校の学習指導要領上の繋がり

部 会	H19	H20	H21	H22	H23	H24
国 語	カリキュラム作成 (初案)	カリキュラム作成 (第2案)	カリキュラム作成 (第3案)	カリキュラム作成 (第4案)	カリキュラム作成 (第5案)	カリキュラム作成 (最終案)
社 会	カリキュラム作成 (初案)	カリキュラム作成 (第2案)	カリキュラム作成 (第3案)	カリキュラム作成 (第4案)	カリキュラム作成 (第5案)	カリキュラム作成 (最終案)
算数・数学	カリキュラム作成 (初案)	カリキュラム作成 (第2案)	カリキュラム作成 (第3案)	カリキュラム作成 (第4案)	カリキュラム作成 (第5案)	カリキュラム作成 (最終案)
理 科	カリキュラム作成 (初案)	カリキュラム作成 (第2案)	カリキュラム作成 (第3案)	カリキュラム作成 (第4案)	カリキュラム作成 (第5案)	カリキュラム作成 (最終案)
外 国 語	カリキュラム作成 (初案)	カリキュラム作成 (第2案)	カリキュラム作成 (第3案)	カリキュラム作成 (第4案)	カリキュラム作成 (第5案)	カリキュラム作成 (最終案)
道 徳	カリキュラム作成 (初案)	カリキュラム作成 (第2案)	カリキュラム作成 (第3案)	カリキュラム作成 (第4案)	カリキュラム作成 (第5案)	カリキュラム作成 (最終案)
総合的な学習	カリキュラム作成 (初案)	カリキュラム作成 (第2案)	カリキュラム作成 (第3案)	カリキュラム作成 (第4案)	カリキュラム作成 (第5案)	カリキュラム作成 (最終案)
音 楽	平成21年度より、随時可能な範囲で、移行実施していくものとする。	カリキュラム作成 (初案)	カリキュラム作成 (第2案)	カリキュラム作成 (第3案)	カリキュラム作成 (第4案)	カリキュラム作成 (最終案)
図画工作・美術	カリキュラム作成 (初案)	カリキュラム作成 (第2案)	カリキュラム作成 (第3案)	カリキュラム作成 (第4案)	カリキュラム作成 (第5案)	カリキュラム作成 (最終案)
図画工作科、家庭科、技術・家庭科						
体育・保健体育科						
	改訂学習指導要領公表	移行開始	移行開始	移行開始	移行開始	移行開始
	小学校教科書	中学校教科書	小学校教科書	中学校教科書	小学校教科書	中学校教科書
			改訂版発行			

図5 標準カリキュラム作成スケジュール¹⁹⁾

- ・委員・・担当指導主事
- ・中学校校長 (部長)
- ・小学校校長 (副部長)
- ・小中学校教諭各2名 (計4名)
- ・学識経験者 (兵庫教育大学教授)

また、第1回会議ではカリキュラム作成基本方針として前節で示した「構想のポイント」が説明された。

(4) 図画工作科・美術科版カリキュラムの作成過程

① 第1回目の検討会、集約版の検討

平成21年8月に図画工作科・美術科部会が開かれ、カリキュラム作成のたたき台として筆者が、小中の指導要領の関係性を整理した資料 (図6) と集約版 (表現領域) 第1案 (表1) を提案した。また、他教諭から「造形遊び」について中学教諭の理解を促す、実践例が示されたり、小学校校長より小学校図画工作年間指導計画における教材と

評価規準の説明がされたりした。

- ・その後、下記の内容の討議が行われた。
- ・小学校A表現領域 (1, 造形遊び)・(2, つくりたいものを作る) と中学校A表現領域 (1, 絵・彫刻等の発想・構想)・(2, デザイン, 工芸等の発想・構想)・(3, 技能) がどのように結びつけるかが大きなポイントとなる。
- ・共通事項や指導計画の作成と内容を集約版にどのように取り込むのか検討する必要がある。

この点については、助言者より「共通事項は何らかの標記を行うことでまとめになる」・「指導計画の作成と内容の取り扱いについては標記しなくてもよい」との助言があった。そして、以下の今後の取組みにむけての課題点が整理された。

- ・全体構想版の原案の育てたい力、指導のポイントを考える。
- ・鑑賞の集約版をつくる。
- ・11月下旬までにメールで情報交換をする。
- ② 集約版の全体構想の検討

以後、メールで筆者が軸となって助言者や他委員と情報交換を図り、12月上旬に以下のような中期の構成案を各委員に提案した (図7)。

- ・「造形遊び」を中1で扱う (導入等で)。
- ・以下の中学校1年の項目を小学校6年で扱う。
「絵や彫刻に表現する活動」
「デザイン・工芸などに表現する活動」
- ・中学校1年の「技能に関する事項」の内容を小

表1 「表現」領域集約版 第1案

小中一貫教育標準カリキュラム 図画工作・美術科 「表現」領域 集約版		前期=小学校1年から4年 中期=小学校5年から中学校1年 後期=中学校2年・3年							
育てたい力	前 期	中 期				後 期			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 進んで表現したり見たりする態度 ・ つくりだす喜びを味わう意欲。 ・ 造形活動を楽しむ、材料などから豊かな発想をする。 ・ 手や身体全体の感覚や技能などを働かせ、表現方法を工夫する造形的な能力。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進んで表現したり見たりする態度 ・ つくりだす喜びを味わう意欲。 ・ 造形活動を楽しむ、材料などから豊かな発想をする。 ・ 手や身体全体の感覚や技能などを働かせ、表現方法を工夫する造形的な能力。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 創造的に表現したり鑑賞したりする活動に取り組み美術を愛好する心情 ・ つくりだす喜びを味わいつつ、心豊かな生活を創造していく意欲と態度。 ・ 材料等対象を見つめ、特徴を感じ取る力、想像力を働かせて発想し、主題の表現方法を構想する ・ 形や色などによる表現の技能を身に付け、意図に応じて創意工夫し美しく表現する造形的な能力を高める ・ 自然の造形や複製のある美術作品のよさや美しさを感じ取る力、作品等についての基礎的な理解 ・ 美術文化に対する関心を持ち、それらに大膽にする態度 				<ul style="list-style-type: none"> ・ 主体的に美術の活動に取り組み美術を愛好する心情 ・ 心豊かな生活を創造していく意欲と態度。 ・ 対象を深く見つめ感じ取る力や想像力を一層高める、創造的・総合的な見方や考え方を培い、豊かに発想し構想する能力 ・ 自分の表現方法を創意工夫し、創造的に表現する能力を伸ばす。 ・ 自然の造形、美術作品や文化遺産などについての理解や見方 ・ 心豊かに生きることと美術とのかかわりに関心をもち、よさや美しさなどを味わう鑑賞の能力 			
指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・ 材料を基に造形遊びをする活動。 ア 身近な自然物（樹幹）や人工の材料の形や色などを基に発想してつくる。 イ 感覚や気持ちを生かしながら新しい形をつくるとともに、その形から発想したりみんなで話し合ったりしながら楽しくつくる。 ウ 材料や用具についての経験を生かし、並べたり、つなげたり、積んだり、組み合わせたり、切ったり繋いだり、形を変えたりするなど全体を働かせてつくる。 ・ 感じたことや想像したことを絵や立体、工作に表現する活動。 ア 感じたことや想像したこと、見たことから、表現したいことを見付けて表す。 イ 好きな色を選んだり、いろいろな形をつくって楽しんだりしながら表現したいことや用途などを考え、形や色、材料などを生かし、計画を立てるなどして表す。 ウ 表現したいことに合わせて、手を使ったり、身近な材料や扱いやすい用具の特徴を生かして使うとともに、表現方法を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 材料や場所などの特徴を基に造形遊びをする活動 ア 材料や場所などの特徴を基に発想し想像力を働かせてつくる。 イ 目的や条件（周囲の様子）などを基に、美的感覚を働かせて、構成や装飾を考え、表現の構想をつくる。 ウ 前学年までの材料や用具などについての経験や技能を総合的に生かしてつくる ・ 感じたこと、想像したこと、見たこと、伝えたいことを絵や立体工作に表現する活動 ア 対象を見つめ感じ取った形や色彩の特徴や美しさ、想像したこと、伝えたいことと想像したことなどを基に表現したいこと（主題）を生み出すこと。 イ 用途や機能、使用する者の気持ち、分りやすい伝え方、材料などから美しさなどを考え、表現の構想をつくる。 ウ 形や色などによる表現方法を身に付け、表現に合った方法などを組み合わせたり、意図に応じて材料や用具の特性を生かし制作の順序などを考えながら、見通しをもって表現する。 				<ul style="list-style-type: none"> ・ 感じ取ったことや考えたこと等を基に表現する発想や構想 ア 対象を見つめ感じ取った形や色彩の特徴や美しさ、想像したことなどを基に主題を生み出す イ 主題などを基に、全体と部分との関係などを考えて創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想をつくる。 ・ 伝える、使うなどの目的や条件を考慮して表現する発想や構想 ア 目的や条件などを基に、美的感覚を働かせて、構成や装飾を考え、表現の構想をつくる。 イ 他者の立場に立って、伝えたい内容について分りやすいや美しさなどを考え、表現の構想をつくる。 ウ 用途や機能、使用する者の気持ち、材料などから美しさなどを考え、表現の構想をつくる。 ・ 発想や構想をしたことなどを基に表現する技能 ア 形や色などによる表現方法を身に付け、意図に応じて材料や用具の生かし方などを考え、創意工夫して表現する。 イ 材料や用具の特性等から制作の順序などを考え、見通しを持って表現する 			
学習内容	<p>小学1年</p> <p>表現(1) 造形遊び</p> <ul style="list-style-type: none"> 「材料を基に造形遊び」 ・ 材料の色・形から思いつく ・ 感覚や気持ち ・ 並べたり、繋いだり、積んだり <p>表現(2) つくりたいもの</p> <ul style="list-style-type: none"> 「感じたこと、想像したことを」 ・ 好きな色を選ぶ、いろいろな形をつくる ・ 身近な材料、扱いやすい道具 ・ 手を働かせて <p>鑑賞</p> <ul style="list-style-type: none"> 「身の回りの作品などを鑑賞」 ・ 自分たちの作品や身近な材料 ・ 話したり、聞いたり・形や色、表現方法など <p>土、粘土、木、紙、クレヨン、パス、紙、のり、簡単な小刀・慣れる</p>	<p>小学2年</p> <p>「材料や場所を基に造形遊び」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 話し合ったり、組み合わせ、切ったり繋いだり、形を変え <p>「感じ、想像し、見たこと」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 用途や条件を、形や色、材料等を生かし計画を立てる ・ 材料や用具の特徴を生かして使う <p>「身近にある作品などを鑑賞」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 身近な美術作品や制作の過程 ・ 話し合い等で、多様な表現方法や材料による感じの違いなどが分かる <p>木切、板、針、水彩画の具、小刀、鉛、金、づち・適切に扱う</p>	<p>小学3年</p> <p>「材料や場所の特徴を基に造形遊び」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 話し合ったり、組み合わせ、切ったり繋いだり、形を変え <p>「感じ、想像し、見たこと」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 用途や条件を、形や色、材料等を生かし計画を立てる ・ 材料や用具の特徴を生かして使う <p>「身近にある作品などを鑑賞」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 我が国や諸外国の美術作品、暮らしの中の作品 ・ 話し合い等で、表現方法や材料による感じの違いなどが分かる 	<p>小学4年</p> <p>「材料や場所の特徴を基に造形遊び」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 話し合ったり、組み合わせ、切ったり繋いだり、形を変え <p>「感じ、想像し、見たこと」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 用途や条件を、形や色、材料等を生かし計画を立てる ・ 材料や用具の特徴を生かして使う <p>「身近にある作品などを鑑賞」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 我が国や諸外国の美術作品、暮らしの中の作品 ・ 話し合い等で、表現方法や材料による感じの違いなどが分かる 	<p>小学5年</p> <p>「材料や場所の特徴を基に造形遊び」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 話し合ったり、組み合わせ、切ったり繋いだり、形を変え <p>「感じ、想像し、見たこと、伝えたいこと」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 用途や条件を、形や色、材料等を生かし計画を立てる ・ 材料や用具の特徴を生かして使う <p>「身近にある作品などを鑑賞」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 我が国や諸外国の美術作品、暮らしの中の作品 ・ 話し合い等で、表現方法や材料による感じの違いなどが分かる <p>針金、糸のこぎりなど</p>	<p>小学6年</p> <p>「絵や彫刻に表す」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 形や色や想像したこと等を基に主題を生み出す。 ・ 主題などを基に表現する構想 <p>「デザインや工芸に表す」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 目的や条件を基に表現の構想 ・ 伝えたい内容、表現の構想 ・ 用途や機能や美しさを考慮して表現の構想 <p>「発想や構想を表現する技能」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 形や色や想像したことによる表現方法 ・ 材料や用具の生かし方 ・ 見通しをもって表現 <p>「美術作品等のよさや美しさを感じ取り味わう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 身近な地域や日本及び諸外国の美術の文化遺産など 	<p>中学1年</p> <p>「絵や彫刻に表す」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 形や色や想像したこと等を基に主題を生み出す。 ・ 主題などを基に表現する構想 <p>「デザインや工芸に表す」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 目的や条件などを基に構成や装飾を考え、表現の構想 ・ 伝えたい内容を多くの人に伝えるために、表現の構想 ・ 使用する気持ちや機能、夢や想像、造形的美しさ等を考慮して表現の構想 <p>「発想や構想を表現する技能」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 表現意図に合う新たな表現方法を工夫するなどして創造的に表現 ・ 制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって表現 <p>「美術作品などのよさや美しさを感じ取り味わう活動」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の価値意識をもって批評し合うなどして、美意識を高める。 ・ 生活を美しく豊かにする美術の働きについて理解すること。 ・ 日本の美術や伝統と文化に対する理解と愛情、諸外国の美術や文化のそれぞれのよさや美しさ、国際理解を深め、美術文化の継承と創造 	<p>中学2年</p> <p>「絵や彫刻に表す」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 形や色や想像したこと等を基に主題を生み出す。 ・ 主題などを基に表現する構想 <p>「デザインや工芸に表す」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 目的や条件などを基に構成や装飾を考え、表現の構想 ・ 伝えたい内容を多くの人に伝えるために、表現の構想 ・ 使用する気持ちや機能、夢や想像、造形的美しさ等を考慮して表現の構想 <p>「発想や構想を表現する技能」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 表現意図に合う新たな表現方法を工夫するなどして創造的に表現 ・ 制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって表現 <p>「美術作品などのよさや美しさを感じ取り味わう活動」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の価値意識をもって批評し合うなどして、美意識を高める。 ・ 生活を美しく豊かにする美術の働きについて理解すること。 ・ 日本の美術や伝統と文化に対する理解と愛情、諸外国の美術や文化のそれぞれのよさや美しさ、国際理解を深め、美術文化の継承と創造 	<p>中学3年</p> <p>「絵や彫刻に表す」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 形や色や想像したこと等を基に主題を生み出す。 ・ 主題などを基に表現する構想 <p>「デザインや工芸に表す」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 目的や条件などを基に構成や装飾を考え、表現の構想 ・ 伝えたい内容を多くの人に伝えるために、表現の構想 ・ 使用する気持ちや機能、夢や想像、造形的美しさ等を考慮して表現の構想 <p>「発想や構想を表現する技能」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 表現意図に合う新たな表現方法を工夫するなどして創造的に表現 ・ 制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって表現 <p>「美術作品などのよさや美しさを感じ取り味わう活動」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の価値意識をもって批評し合うなどして、美意識を高める。 ・ 生活を美しく豊かにする美術の働きについて理解すること。 ・ 日本の美術や伝統と文化に対する理解と愛情、諸外国の美術や文化のそれぞれのよさや美しさ、国際理解を深め、美術文化の継承と創造

学校6年で扱う。

- ・ 中学校1年生の鑑賞を小学校6年生で扱う。
 - ・ 共通事項は、小学校6年生で児童の実態等を配慮して、小学校・中学校を並列で扱う。
 - ・ 集約版は、表現と鑑賞、1枚ずつ作成。共通事項の項目は、それぞれにつける。
- この提案に対し、下記の意見が寄せられた。

- ・ 中期の6年が中学1年の下請けになり、5年生で6年生の教材を全てやることは難しい。
 - ・ 中期全体を通して、なめらかに中学の内容へ移行するように関係性をデザインできないか。
- そこで、助言者や担当校長等と相談の上、以下のように修正して再提案した(図8)。
- ・ 「造形遊び」を、生徒の実態に応じて、中学校

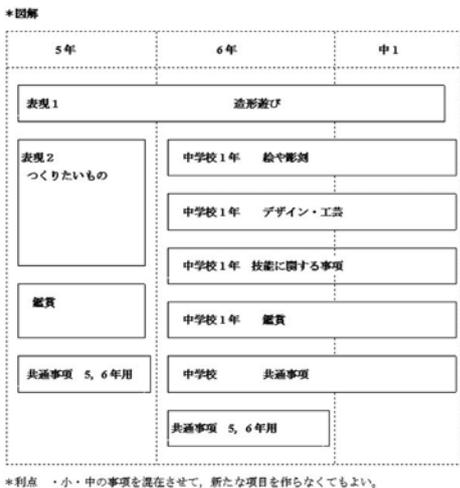


図7 中期の構成, 第1案

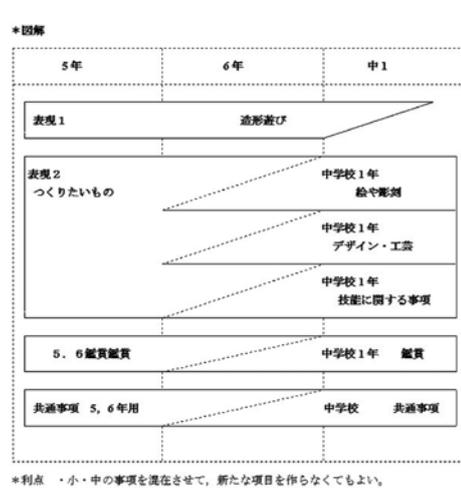


図8 中期の構成, 第2案

表2 「表現」領域集約版 完成版

小中一貫教育標準カリキュラム 図画工作・美術科 「表現」領域 集約版				前期＝小学校1年から4年		中期＝小学校5年から中学校1年		後期＝中学校2年・3年	
前期		中期		後期		前期		後期	
育てたい力	・進んで表現する態度。 ・つくりだす喜びを味わう。 ・造形活動を楽しむながら、豊かな発想を感じる能力。 ・全体全体を十分に働かせ、表現力を高める。	・進んで表現する態度。 ・つくりだす喜びを味わう。 ・材料などからの豊かな発想を生かす能力を十分に働かせ、表現力を高める。 ・造形的な能力。	・創造的に表現する態度。 ・つくりだす喜びを味わう。 ・材料などの特徴をとらえ、想像力を働かせて主題の発想し、表現方法を構想する。 ・様々な表現方法を工夫する、造形的な能力。	・楽しく美術の活動に取り組み、美術を愛好する心情。 ・心豊かな生活を創造していく意欲と態度。 ・心豊かな生活を創造していく意欲と態度。 ・対象を見つめ感じ取る力や想像力を高め、豊かに発想し構想する能力。 ・形や色彩などによる表現の技術身に付け、意匠に応じて創意工夫し美しく表現する能力。	・主体的に美術の活動に取り組み美術を愛好する心情。 ・心豊かな生活を創造していく意欲と態度。 ・対象を深く見つめ感じ取る力や想像力を一層高め、独自の・総合的な見方や考え方を培い、豊かに発想し構想する能力。 ・自分の表現方法を創意工夫し、創造的に表現する能力。				
	・材料を基にした造形遊び ア身近な自然物や人工の材料の形や色などを基に発想させる。イ感覚や気持ちを生かすことを楽しませる。 ・感じたことや想像したことを絵や立体、工作に表す ア感じたことや想像したことから、イ好きな色を選んで、色々な形をつくることを楽しませる。 ウ身近な材料や扱いやすい用具を手を働かせて使ったり、表現方法を考えさせる。	・材料や場所などを基にした造形遊び ア身近な材料や場所などを基に発想させる。 イ新しい形をつくるとともに、その形から発想させたり、みんなで話し合せて考えさせる。 ウ前学年までの材料や用具についての経験を生かし、組み合わせたり、切つてつないで、形を変えさせる。 ・感じたこと、想像したこと、見たことを絵や立体、工作に表す ア感じたこと、想像したこと、見たことから、表現したいことを見つけさせる。 イ表現したいことや用途などを考えながら、形や色、材料などを生かし、計画を立てさせる。 ウ表現したいことに合わせて、材料や用具の特徴を生かして使ったり、表現方法を考えさせる。	・材料や場所などの特徴を基にした造形遊び ア材料や場所などに進んでかかわり合い、それらを基に構成したり周囲の様子を考え合わせたりしながらつくる。 ウ前学年までの材料や用具などについての経験や技能を総合的に生かしてつくる。 ・感じたこと、想像したこと、見たこと、伝えたいことを絵や立体、工作に表す活動 ア感じたこと、想像したこと、見たこと、伝えたいこと、表現したいことを見つけさせる。 イ形や色、材料の特徴や構成の美しさなどの感じ、用途などを考えながら、表現方法を構想させる。 ウ表現したいことに合わせて、材料や用具の特徴を生かして使ったり、表現方法を考えさせる。 ・発想や構想をしたことなどを基に表現する技能 ア形や色彩などの表現方法を身に付け、意匠に応じて材料や用具の生かし方などを考え、創意工夫して表現させる。 イ材料や用具の特性等から制作の順序などを考え、見直しを持って表現させる。	・感じ取ったことや考えたこと等を基に、絵や彫刻などに表現する発想や構想 ア対象を深く見つめ感じ取ったこと、考えたこと、夢、想像や感情などの心の世界などを基に、主題を生み出させる。 イ主題などを基に想像力を働かせ、単純化や省略、強調、材料の組み合わせなどを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かな表現の構想を練らせる。 ・伝える、使うなどの目的や機能を考え、デザインや工芸などに表現する発想や構想 ア目的や条件などを基に、美的感覚を働かせて形や色彩、図柄、材料、光などの総合性を留意してより総合化しやすくなるように構成や装飾を考え、表現の構想を練らせる。 イ伝えたい内容を多くの人に伝えるために、形や色彩などの効果を生かして分かりやすさや美しさなどを考え、表現の構想を練らせる。 ウ使用する者の気持ちや機能、夢や想像、造形的な美しさなどを総合的に考え、表現の構想を練らせる。 ・発想や構想をしたことなどを基に表現する技能 ア材料や用具の特性を生かし、自分の表現意匠に合った新たな表現方法を工夫するなどして創造的に表現させる。 イ材料や用具、表現方法の特性などから制作の順序などを総合的に考えながら、見直しをもって表現させる。					
学習内容	材料を基にした造形遊びをする活動	材料や場所などを基にした造形遊びをする活動	材料や場所などの特徴を基にした造形遊びをする活動	感じ取ったこと、想像したこと、見たこと、伝えたいことを絵や立体、工作に表す活動	感じ取ったこと、想像したこと、見たこと、伝えたいことを絵や立体、工作に表す活動	伝える、使うなどの目的や機能を考え、デザインや工芸などに表現する活動を通して、発想や構想をする	伝える、使うなどの目的や機能を考え、デザインや工芸などに表現する活動を通して、発想や構想をする	伝える、使うなどの目的や機能を考え、デザインや工芸などに表現する活動を通して、発想や構想をする	伝える、使うなどの目的や機能を考え、デザインや工芸などに表現する活動を通して、発想や構想をする
	感じたことや想像したことを絵や立体、工作に表す活動	感じたことや想像したことを絵や立体、工作に表す活動	感じたこと、想像したこと、見たこと、伝えたいことを絵や立体、工作に表す活動	感じたこと、想像したこと、見たこと、伝えたいことを絵や立体、工作に表す活動	感じたこと、想像したこと、見たこと、伝えたいことを絵や立体、工作に表す活動	伝える、使うなどの目的や機能を考え、デザインや工芸などに表現する活動を通して、発想や構想をする	伝える、使うなどの目的や機能を考え、デザインや工芸などに表現する活動を通して、発想や構想をする	伝える、使うなどの目的や機能を考え、デザインや工芸などに表現する活動を通して、発想や構想をする	伝える、使うなどの目的や機能を考え、デザインや工芸などに表現する活動を通して、発想や構想をする

表3 「鑑賞」領域集約版 完成版

小中一貫教育標準カリキュラム 図画工作・美術科 「鑑賞」領域 集約版				前期＝小学校1年から4年		中期＝小学校5年から中学校1年		後期＝中学校2年・3年	
前期		中期		後期		前期		後期	
育てたい力	・進んで見る態度 ・身の回りの作品などから、面白さや楽しさを感じ取る力	・進んで鑑賞する態度 ・身近にある作品などから、よさや面白さを感じ取る力	・創造的に鑑賞する態度 ・親しみのある作品などから、よさや楽しさを感じ取る力 ・それらを大切にしようとする姿勢。	・楽しく美術の活動に取り組み、美術を愛好する心情。 ・心豊かな生活を創造していく意欲と態度。 ・自然の造形や美術作品などについての基礎的な理解や見方を広げ、美術文化に対する関心を高め、よさや楽しさなどを味わう鑑賞の能力。	・主体的に美術の活動に取り組み美術を愛好する心情。 ・心豊かな生活を創造していく意欲と態度。 ・自然の造形、美術作品や文化遺産などについての理解や見方を深め、心豊かに生きることと美術とのかかわりに関心をもち、よさや楽しさなどを味わう鑑賞の能力。				
	・身の回りの作品などを鑑賞する活動 ア自分たちの作品や身近な材料などを楽しく見させる。 イ感じたことを話したり、友人の話を聞かせたりして、形や色、表現の面白さ、材料の感じなどに気付かせる。	・身近にある作品などを鑑賞する活動 ア自分たちの作品や身近な美術作品や製作の過程などを鑑賞して、よさや面白さを感じ取らせる。 イ身近な作品や思ったことを話したり、友人と話し合せて、いろいろな表現方法や材料による感じの違いなどが分かるようにする。	・親しみのある作品などを鑑賞する活動 ア自分たちの作品、我が国や外国の親しみのある美術作品、暮らしの中の作品などを鑑賞して、よさや楽しさを感じ取らせる。 イ感じたことや思ったことを話したり、友人と話し合せて、表現の意匠や特徴などをとらえさせる。	・美術作品などのよさや楽しさを感じ取り味わう活動をする鑑賞 ア鑑賞作品などのよさや楽しさ、作者の心情や意匠と表現の工夫、美と機能の調和、生活における美術の働きなどを感じ取らせ、作品に対する思いや考えを説明し合うようにして、対象の見方や感じ方を広げる。 イ身近な地域や日本及び外国の美術の文化遺産などを鑑賞し、そのよさや楽しさを感じ取らせ、美術文化に対する関心を高める。	・美術作品などのよさや楽しさを感じ取り味わう活動をする鑑賞 ア鑑賞作品などのよさや楽しさ、作者の心情や意匠と表現の工夫、美と機能の調和、生活における美術の働きなどを感じ取らせ、作品に対する思いや考えを説明し合うようにして、対象の見方や感じ方を広げる。 イ日本の美術の歴史的な変遷や作品の特質を調べさせたり、それらの作品を鑑賞させたりして、日本の美術や伝統と文化に対する理解と愛情を深めるとともに、諸外国の美術や文化との相違と共通性に気付かせ、それぞれのよさや楽しさを感じ取らせ、美術を通じた国際理解を深め、美術文化の継承と創造への関心を高める。				
学習内容	身の回りの作品などを鑑賞	身近にある作品などを鑑賞	親しみのある作品などを鑑賞	美術作品などのよさや楽しさを感じ取り味わう活動をする鑑賞	美術作品などのよさや楽しさを感じ取り味わう活動をする鑑賞	美術作品などのよさや楽しさを感じ取り味わう活動をする鑑賞	美術作品などのよさや楽しさを感じ取り味わう活動をする鑑賞	美術作品などのよさや楽しさを感じ取り味わう活動をする鑑賞	美術作品などのよさや楽しさを感じ取り味わう活動をする鑑賞
	ア自分の感覚や活動を通して、形や色などをとらえること。イ形や色などを基に自分のイメージをもつこと。	ア自分の感覚や活動を通して、形や色、組合せなどの感じをとらえること。イ形や色などの感じを自分のイメージをもつこと。	ア自分の感覚や活動を通して、形や色、動きや奥行きの造形的な特徴をとらえること。イ形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつこと。	ア形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解すること。イ形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること。	ア形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解すること。イ形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること。	ア形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解すること。イ形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること。	ア形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解すること。イ形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること。	ア形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解すること。イ形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること。	ア形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解すること。イ形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること。

表5 図画工作A表現(1)造形遊び→美術A表現 (1/2/3)

小中一貫教育標準カリキュラム 図画工作・美術 詳細版

表1 図画工作A表現(1)造形遊び→美術A表現(1)(2)(3)

区分	中 期	
学年	小学校5・6年	中学校第1学年
学習の主題	材料や場所などの特徴を基に効果的につくり続けることを楽しむ	
育みたい力	<ul style="list-style-type: none"> 自分の感覚や形や活動を通して、形や色、動きや進行などの造形的な特徴をとらえる。 形や色など造形的な特徴を基に、自分のイメージを持つこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解すること。 形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること。
評価規準	<p>知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> 材料・用具の基本的な(安全面も)取り扱いの知識・技能 美しさを考え、材料・場所を再構成するなど基本的な造形活動についての知識・技能 <p>関心・意欲・態度</p> <ul style="list-style-type: none"> 創造的に表現したり鑑賞したりする態度を育てるとともに、つくりだす喜びを味わうようにする。 身近な材料や場所の特徴を基に、効果的に、つくり、つくりかえ、表現活動を続けようとする。 造形遊びの創造的な活動を通して、友達や身近な環境に積極的に関わろうとする。 <p>発想・構想の能力</p> <ul style="list-style-type: none"> 材料や場所などの具体的な特徴を基に発想し、それをふくらませるように想像力を働かせる。 見る人がどのように感じるかなどに思いを巡らせながら構想する。 材料や場所などに積極的に働きかけることによって気付いたことを基に、形や色などの効果や場所の様子の変化や動きなどを考えながら、材料や作品を構成する。 周りの様子との調和を考えた視点をもちながらつくる。 <p>創造的な技能</p> <ul style="list-style-type: none"> とらえた材料や場所などの特徴を効果的に生かす、さまざまな方法を考えようとする。 前学年までの造形活動における材料や用具などについて経験や技能を総合的に生かしてつくる。 <p>鑑賞の能力</p> <ul style="list-style-type: none"> ペアやグループになり、一人一人が感じたことや思いだしたことを出し合うことで、発想を刺激し合いながら活動する。 活動しながら、製作過程のものよさや美しさに気づく。 	<p>知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> 材料・用具の取り扱いに関する知識・技能 形や色彩・光などの性質等に関する知識・技能 <p>関心・意欲・態度</p> <ul style="list-style-type: none"> 楽しく美術の活動に取り組み美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を創造していく意欲と態度を持つこととする。 材料や場所の特徴などから独創的で楽しいアイデアを工夫して作り出していく意欲と態度をもととする。 <p>発想・構想の能力</p> <ul style="list-style-type: none"> 対象を見つめ感じ取った形や色彩の特徴や美しさ、想像したことなどを基に自分独自の世界を生み出す。 全体と部分との関係などを考えて創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練る。 目的や条件などを基に、美的感覚を働かせて、構成や装飾を考え、表現の構想を練ること。 <p>創造的な技能</p> <ul style="list-style-type: none"> 意図に応じて材料や用具の生かし方などを考え、創製工夫して表現すること。 偶然できた形などからイメージが膨らませ、制作の過程を変更するなどして、創造性に富んだ作品をつくりだす。 <p>鑑賞の能力</p> <ul style="list-style-type: none"> 自然の造形も含めた様々な造形の形や色彩などから、対象のもつ造形的なよさや美しさへの見方や感じ方を広げること。 表現技法の選択や材料の生かし方の工夫などに関心をもってみる。
学習内容	<ul style="list-style-type: none"> 風が見えたら(造形遊び3h) アレック?コレ?ナニ?(造形遊び4h) 身近な環境で(造形遊び3h) 光のハーモニー(造形遊び2h) 	<ul style="list-style-type: none"> つくりだすよこび(2h) 自然の形や色を生かして(デザイン・工芸2h) 遊びの心の形(デザイン・工芸2h)

表6 図画工作A表現(2)絵や立体に表す→美術A表現 (1/2/3) 主題を絵や立体に

小中一貫教育標準カリキュラム 図画工作・美術 詳細版

表2 図画工作A表現(2)絵や立体に表す→美術A表現(1)(3)(1) 表現の主題を元に発想して絵や彫刻に表現する活動

区分	中 期	
学年	小学校5・6年	中学校第1学年
学習の主題	感じたこと、想像したこと、見たこと、伝えたいことを見つけ、効果的に絵や立体、工作表すことを楽しむ。	主題などを基に発想・構想し、創意工夫して美しく描いたり、つくったりする。
育みたい力	<ul style="list-style-type: none"> 自分の感覚や形や活動を通して、形や色、動きや進行などの造形的な特徴をとらえる。 形や色など造形的な特徴を基に、自分のイメージを持つこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解すること。 形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること。
評価規準	<p>知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> 材料・用具の基本的な(安全面も)取り扱いの知識・技能(針金・糸通など) 基本的な表現方法 <p>関心・意欲・態度</p> <ul style="list-style-type: none"> 創造的に表現したり鑑賞したりする態度を育てるとともに、つくりだす喜びを味わうようにする。 自分が表したいことに向かって、効果的に、つくり、つくりかえ、表現活動を続けようとする。 自分の生活や体験・領域の学習に表現活動を創造的に生かそうとする。 <p>発想・構想の能力</p> <ul style="list-style-type: none"> 感じたこと、想像したこと、見たこと、伝えたいことから、表したいことを見付けて構想する。 自分の表したいことを表すために、構成の美しさの感じや用途などを考えながら、表し方を構想する。 自分が表したいことを実現するために、材料・用具や表現方法を選択する。 <p>創造的な技能</p> <ul style="list-style-type: none"> 表したいことに合わせて、材料や用具の特徴を生かして使うとともに、表現に適した方法などを組み合わせて表す。 前学年までの材料や用具などについて経験や技能を総合的に生かしてつくる。 自分なりの見直しをもつてつくることで表現の質を高める。 <p>鑑賞の能力</p> <ul style="list-style-type: none"> 表現活動を通して、友達等と感じたこと、考えたこと、技法等について話し合ったりするなどして、いろいろな表現方法や材料による感じの効果の違いについて気づく。 活動しながら、製作過程のものよさや美しさを感じ取り、関心をもってみる。 	<p>知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> 材料・用具の取り扱いに関する知識・技能 スケッチに関する知識・技能 写真・ビデオ・コンピュータ等の映像メディアの活用に関する知識・技能 形や色彩・光などの性質等に関する知識・技能 <p>関心・意欲・態度</p> <ul style="list-style-type: none"> 楽しく美術の活動に取り組み態度や美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を創造していくこととする。 活動を通して、文化の伝承や創造する活動に関わる楽しさに目覚め、積極的に関わろうとする。 対象や自己の内面を見つめて表現する活動から、自己を確認したり、新たな自分を見出したりする。 <p>発想・構想の能力</p> <ul style="list-style-type: none"> 対象を見つめ感じ取った形や色彩の特徴や美しさ、想像したことなどを基に主題を生み出す。 主題などを基に全体と部分との関係などを考えて創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練る。 <p>創造的な技能</p> <ul style="list-style-type: none"> 形や色彩などの表し方を身に付け、意図に応じて材料や用具の生かし方などを考え、創意工夫して表現する。 材料や用具の特性などから制作の順序などを考えながら、見直しをもって表現する。 <p>鑑賞の能力</p> <ul style="list-style-type: none"> 作品の制作過程の中で、自他の作品などよさや美しさを感じ取る。 生徒同士の表現への相互評価を通して自他の差異に気づき、主題に迫る方法の工夫について考える。
学習内容	<ul style="list-style-type: none"> 感じたことを伝えたい(絵4h) 板を切りぬいて(工作4h) タワーをたてよう(立体4h) 楽しく美しく伝えよう(工作6h) アニメーションをつくらう(工作4h) 使った楽しい焼き物(立体・工作4h) 繰り返し表そう(絵6h) 表し方を工夫して(絵4h) 量から感じる形や色(絵2h) 想像の翼を広げて(絵4h) 板をいかにして(絵6h) わたしの小さな部屋(立体・工作2h) わたしの小さな部屋(立体・工作2h) 	<ul style="list-style-type: none"> スケッチの楽しみ(絵・彫刻2h) 見て、感じて(絵・彫刻2h) 心に残る情景(絵・彫刻3h) 想像の世界へ(絵・彫刻3h) 板のよさを生かして(絵・彫刻3h) 立体に表す楽しみ(絵・彫刻2h)

表7 図画工作A表現(2)絵や立体に表す→美術A表現(1/2/3)デザイン・工芸

小中一貫教育標準カリキュラム 図画工作・美術 詳細版

表3 図画工作A表現(2)絵や立体に表す→美術A表現(1)(3)(1)目的や機能を考えた発想を基にデザインや工芸に表す活動。

区分	中 期	
学年	小学校5・6年	中学校第1学年
学習の主題	・感じたこと、想像したこと、見たこと、伝えたいことを見つけ、効果的に絵や立体、工作表すことを楽しむ。	・主題などを基に発想・構想し、創意工夫して美しく描いたり、つくったりする。
育みたい力	共通事項 ・自分の感覚や形や活動を通して、形や色、動きや興行きなどの造形的な特徴をとらえる。 ・形や色など造形的な特徴を基に、自分のイメージを持つこと。 知識・技能 ・材料・用具の基本的な(安全面も)取り扱いの知識・技能(針金・糸鋸など) ・基本的な表現方法	・形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解すること。 ・形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること。 知識・技能 ・材料・用具の取り扱いに関する知識・技能 ・スケッチに関する知識・技能 ・写真・ビデオ・コンピュータ等の映像メディアの活用に関する知識・技能 ・形や色彩・光などの性質等に関する知識・技能
評価標準	関心 ・創造的に表現したり鑑賞したりする態度を育てるとともに、つくりだす喜びを味わうようにする。 ・自分が表したいことに向かって、効果的に、つくり、つくりかえ、表現活動を続けようとする。 態度 ・自分の生活や他教科・領域の学習に表現活動を創造的に生かそうとする。 発想 ・感じたこと、想像したこと、見たこと、伝えたいことから、表したいことを見付けて構想する。 ・構想の能力 ・自分の表したいことを表すために、構成の楽しさの感じや用途などを考えながら、表し方を構想する。 ・自分が表したいことを実現するために、材料・用具や表現方法を選択する。	・美しく美術の活動に取り組み態度や美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を創造していこうとする。 活動を通して、文化の伝承や創造する活動に関わる楽しさに目覚め、積極的に関わろうとする。 ・対象や自己の内面を見つめて表現する活動から、自己を確認したり、新たな自分を見出したりする。 ・用途や機能、使用する者の気持ち、材料の特性などを踏まえて、美しく表現するための構想を練る。 ・身近な生活の範囲から、いつ、どこで、誰が使うかなど場面や状況を踏まえて、使いやすさや利用しやすさを考えて、構成や装飾を考え、表現の構想を練る。 ・他者にとって必要かつ好みに合うものをつくる。楽しんでもらう、心地よさを感じてもらおうなど、生活を心豊かにする視点を大切に構想を練る。
	創造的な技能 ・表したいことに合わせて、材料や用具の特徴を生かして使うとともに、表現に適した方法などを組み合わせて表す。 ・前学年までの材料や用具などについて経験や技能を総合的に生かしてつくる。 ・自分なりの見通しをもつてつくることで表現の質を高める。	・形や色彩などの表し方を身に付け、意図に応じて材料や用具の生かし方などを考え、創意工夫して表現する。 ・材料や用具の特性などから制作の順序などを考えながら、見直しをもって表現する。
	鑑賞の能力 ・表現活動を通して、友達等と感じたこと、考えたこと、技法等について話し合ったりするなどして、いろいろな表現方法や材料による感じの効果の違いについて気づく。 ・活動しながら、製作過程のものよさや楽しさを感じ取り、関心をもつてみる。	・作品の制作過程の中で、自他の作品などのよさや楽しさを感じ取る。 ・生徒同士の表現への相互評価を通して自他の差異に気づき、主題に迫る方法の工夫について考える。
学習内容	・感じたことを伝えたい(絵-4h) ・板を切りぬいて(工作-4h) ・タワーをたてよう(立体-4h) ・楽しく美しく伝えよう(工作-6h) ・アニメーションをつくろう(工作-4h) ・使った楽しい焼き物(立体-工作-4h) ・繰り返し重ねて表そう(絵-6h)	・表し方を工夫して(絵-4h) ・墨から感じる形や色(絵-2h) ・想像の翼を広げて(絵-4h) ・板をいかにして(絵-6h) ・わたしの小さな部屋(立体-工作-2h) ・12年後のわたし(立体-工作-6h)
		・自然の形や色を生かして(デザイン・工芸-2h) ・土と灰の出会い見て、感じて(デザイン・工芸-2h) ・選んだ心のかたち(デザイン・工芸-2h) ・動く絵の楽しさ(デザイン・工芸-3h) ・文字を生かしたデザイン(デザイン・工芸-2h) ・生活を楽しくするデザインーひめじのゆるゆるキャラの制作(デザイン・工芸-2h)

表8 図画工作B鑑賞(1)→美術B鑑賞(1)

小中一貫教育標準カリキュラム 図画工作・美術 詳細版

表4 図画工作B鑑賞(1) → 美術B鑑賞(1)

区分	中 期	
学年	小学校5・6年	中学校第1学年
学習の主題	自分たちの作品、親しみのある作品などから、よさや楽しさを感じ取るとともに、それらを大切にできるようにする。	・自然の造形や美術作品などについての基礎的な理解や見方を広げ、美術文化に対する関心を高め、よさや楽しさなどを味わう。
育みたい力	共通事項 ・自分の感覚や形や活動を通して、形や色、動きや興行きなどの造形的な特徴をとらえる。 ・形や色など造形的な特徴を基に、自分のイメージを持つこと。 知識・技能 ・鑑賞の対象についての知識 ・鑑賞の方法についての基本的な知識・技能 ・美術館・博物館などの活用に関する知識・技能	・形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解すること。 ・形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること。 知識・技能 ・鑑賞の方法に関する知識・技能 ・美術館・博物館などの文化施設や文化財などの活用に関する知識・技能 ・日本や世界の文化遺産・美術作品に関する基本的な知識
評価標準	鑑賞の能力 ・自分たちの作品、我が国や海外の親しみのある美術作品、暮らしの中の作品などを鑑賞して、よさや楽しさを感じ取る。 ・感じたことや思ったことを話したり、友人と話し合ったりするなどして、表し方の変化、表現の意図や特徴などをとらえる ・自他の作品について、自分の言葉で書いたり、適切な人数で話し合ったり、ゲーム的な活動をしたりするなど、他者との交流を重視した活動を通して、自分の見方や感じ方を深める。 ・体全体の感覚を働かせて、感じ取り味わう。	・造形的なよさや楽しさ、作者の心情や意図と表現の工夫、美と機能性の調和、生活における美術の働きなどを感じ取り、作品などに対する思いや考えを説明し合うなどして、対象の見方や感じ方を広げる。 ・身近な地域や日本及び海外の美術の文化遺産などを鑑賞し、そのよさや楽しさなどを感じ取り、美術文化に対する関心を高める。
学習内容	・不思議な絵(鑑賞-2h) ・アート・レポーターになって(鑑賞-2h) ・表現にこめた思い(鑑賞-2h) ・味わってみよう、日本の美術(鑑賞-2h)	・鑑賞は小さな美術館(鑑賞-1h) ・生活とデザイン(鑑賞-1h) ・見ることと描くこと(鑑賞-1h) ・のこされた造形(鑑賞-1h) ・伝統文化を味わおう。(鑑賞-2h)

表9 実践事例1 「身近な環境で ー姫路の風や光を感じてー」

実践事例1 図画工作A表現(1)造形遊び→美術 A表現(1)(2)(3)

題材名=「身近な環境で ー姫路の風や光を探してー」(造形遊び-2h) 時間=2時間		
校種=小学校6年生→小学1年生 領域=造形遊び		
身近な環境で(造形遊び-3h)→・自然の形や色を生かして(デザイン・工芸-2h)・つくりだすよこび(2h)		
題材の目標=身近な場所で見つけた風や光の感じや場所の特徴を生かすことができる材料や表し方を選び、形や色、その組み合わせ方を工夫しながら空間を造形的に構成することができる。		
・材料=自然材(葉・枝等) 木切れ・ダンボール・ビニールひも・色セロハン・タコ糸・ペットボトル等		
・用具=はさみ・ダンボールカッター・のこぎり・ほうき等		
児童・生徒の学習活動	指導のポイント	評価規準[項目](手だて)
1 校庭などで風や光を感じる場所を探し、光・風や場所の特徴を生かす材料や表し方を考える。	・探し出した魅力的な光風や場所、そしてそれを生かした表現方法を交流させることで、個々の発想や表現に広がりできるようにする。	・積極的に風や光等を探し、それを生かす表し方を周囲の考えを参考にしながら考えている。[関心・意欲][発想・構想](活動・対話)
見つけた姫路の風・光の感じや場所の特徴を生かした表現を楽しもう。		
2 自然材や人工材の特徴を生かしたり、その組み合わせを工夫しながら表現する。	・どこから手がけていいかとまどっている児童・生徒には、周囲の活動を紹介する。 ・鑑賞者への安全を考えながら、飾の高さなどを工夫させる。	・材料を選び、その組み合わせを工夫しながら表現している。[創造的技法](活動・対話)
3 互いの作品を鑑賞しながら、風や光を生かす造形活動の楽しさを味わう。	・風や光による作品の変化だけでなく、作品設置で変わった場所の様子にも着目させる。	・自分や友達作品から、よさや美しさ等を発見している。[鑑賞](活動・対話)

- ・出合いの工夫
本題材は、児童・生徒にとって身近な場所で見つけた風・光を生かした表し方を、木や枝・葉と布等の材料の特徴、さらにそれらを組み合わせる様子などから考え、魅力的な空間を作り出す造形活動である。まず、校庭や学校周辺等から興味をひく光や風が存在する環境を探させる。また、その過程で表現に役立つ葉や枝を集めさせる。そうすることで、主体的に身近にある材料や空間の魅力を見出すことができる。
- ・発想・構想を引き出す工夫
森に吹く風、差し込む光、そして木の枝や葉等は、その色や形、質感がどれも違っており、その多様性が豊かな発想を生むきっかけになると思われる。また、それらを組み合わせたり、設置方法を工夫させることで、身近な空間をさらに魅力的にする構想が広がっていくと考えられる。加えて、布やビニールシート・テープ・色セロハン等の人工材も、巻いたり・張ったり・包んだりと多様な使い方が期待でき、個々の思いを表現していくための重要な要素になると思われる。
- ・技能を高める工夫
どう手がけたらよいかとまどっている児童・生徒には、風・光を生かした作品を例示したヒントコーナーを用意し、発想の手掛かりにさせる。また、「こうしたい」という思いがあっても、接着等の技能が伴わないと、その気持ちが萎えてしまう。特に自然材の接合等は難しいと思われるので、それを容易にするタコ糸・針金・モール・ホットボンド等を用意し、表現への意欲が持続できるようにする。
- ・鑑賞(掲示)の工夫
鑑賞の活動では、他の学年の児童・生徒や教師・保護者にも作品の見所を説明したり、感想カードを用意して評価を集める等、身近な環境を魅力的にする作品のよさや美しさを伝え合う活動を大切にしている。

表10 実践事例2 「見て・感じて ー絵やスケッチを楽しむー」

実践事例2 美術 A表現(1)(2)(3)表現の主題を元に発想して絵や彫刻に表す活動
→図画工作A表現(2)絵や立体に表す

題材名=「見て・感じて ー絵・スケッチを楽しむー」 時間=2時間		
校種=小学1年生→小学6年生 領域=絵や彫刻		
・スケッチの楽しみ(絵・彫刻-2h)・見て、感じて(絵・彫刻-2h)→・感じたことを伝えたい(絵-4h)		
題材の目標=対象から受ける印象を大切に、形の美しさを見つけることで、視点を決め構図を工夫しながら、画面に取り入れて描くことができる。		
・材料=描画用紙(スケッチブック、画用紙、和紙、ケント紙等)		
・用具=描画用具一式(鉛筆、色鉛筆、コンテ、墨汁、ペン、水彩絵の具等)・参考資料(教科書・生徒作品)		
児童・生徒の学習活動	指導のポイント	評価規準[項目](手だて)
1 普段、何気なく見ていたものをじっくり観察し、描くモチーフを決める。	・学習内容を事前に予告し、校舎内等においてさまざまな対象を観察させモチーフを複数選ばせ、参考資料等を基に描く対象を決定させる。	・主体的に描くモチーフを選択し、そこから思いをふくらますことができる。[関心・意欲][発想・構想](活動・対話)
対象をじっくり観察し、素直に感じ取ったよさや美しさを絵で表現しよう。		
2 発見したモチーフのよさや美しさを絵で表現する。	・表現材料は主に水彩とするが、各自が選んだモチーフの特徴を生かすために自由に選択させる。無理に彩色を義務づけたりしない。	・見ることと描くことを繋げ、対象のよさや美しさを感じながら絵に表すことができる。[創造的技法](活動・作品)
3 友達と作品の相互鑑賞をおこなう。	・相互鑑賞では、表現の巧みさではなく、自身が発見したよさや美しさをいかに表現したかを発表させる。	・作品の表現から、対象から発見したよさや美しさを感じ取り、説明することができる。[鑑賞](活動・対話)

- ・出合いの工夫
本題材は、自然をはじめとする身近な事物のスケッチの発展として、対象を見つめ感じ取ったこと、考えたことを絵で表すことをねらいとする。「見る」ということは、「知る」ということであり、そこには発見の喜びや感動を伴うものとする。そのため、学習活動を事前に予告し、対象を手にとってその感触を確かめながら、表面の様子や構造などをじっくりと「見る」時間を与える。そして、主体的にモチーフを選択させ、その発見を具現化する満足感が得られるようにする。
- ・発想・構想を引き出す工夫
普段何気なく見ていたものを、多様な角度から注意深く見つめたり、触ったりさせることで、描く対象の各パーツの素材や陰影等に注目させ、構図における部分と部分、部分と全体との関係やバランス等に配慮しながら、作品を構想することができるようにする。
- ・技能を高める工夫
描画材料については、水性絵の具の使い方を中心に学習を進める。さらに、必要に応じて土等を混ぜるなど自作絵の具づくりも体験させ、市販絵の具(色材)と併用して描くことで、対象から受ける感じを児童・生徒なりの表現で楽しませながら制作させる。
- ・鑑賞(掲示)の工夫
学習の途中に相互鑑賞の機会を設け、対象や技法に関する個々の気付きをグループで共有できるようにする。また、終末には友達作品への感想やアドバイスを付箋に書かせ、交流させることで表現することへの意欲を喚起していけるようにする。

表11 実践事例3 「生活を楽しむデザインー郷土のよさを伝える姫路の新ゆるキャラの制作」

実践事例3 美術 A表現(2)(3) 目的や機能を考えた発想を基にデザインや工芸に表す活動 → 図画工作 A表現(2) 絵や立体に表す		
題材名=「生活を楽しむデザインー郷土のよさを伝える姫路の新ゆるキャラの制作」 時間=3時間		
校種=中学校1年生→小学校6年生 領域=デザインや工芸		
生活を楽しむデザイン・文字を生かしたデザイン(デザイン・工芸2h) → 楽しく美しく伝えよう(工作6h)		
題材の目標=郷土の魅力をアピールする「ゆるキャラ」のデザインの「効果的な色彩や構成」の読み取りを通して、デザインのもつよさや美しさ、デザインの働きについての理解を深める。 ・デザインの持つ意味や意義を理解し、視覚伝達デザインの楽しさを味わう。		
・材料=紙・紙粘土・絵の具・スチロール ・用具=鉛筆、絵の具、へら、爪楊枝・カッターナイフ		
児童・生徒の学習活動		
指導のポイント		評価規程[項目](手だて)
1 他市の「ゆるキャラ」デザインの戦略を 探る。 ・宣伝企画を立てよう	・インターネットなどで既存のキャラの色彩やデザインの工夫や売るための戦略を調べさせる。	・色彩やデザインのとよさと働きなどについて調べ・整理することができる。 [鑑賞](ワークシート・対話)
姫路の魅力をアピールする新「ゆるキャラ」をつくりだそう。		
2 アイデアスケッチ(構成)をつくる。	・集めた情報を基にどのようなキャラにするかを考え、伝えたいイメージに合った技法を考えさせる。	・姫路の魅力を伝えるオリジナルのキャラをイメージすることができる。 [発想・構想](アイデアスケッチ)
3 スケッチを基に「ゆるキャラ」を立体で表現する。	・伝えたいイメージに合った技法を使用し、立体の「ゆるキャラ」をつくらせる。	・材料を有効に使用し、自分のイメージに合ったキャラを制作することができる。 [創造的技法](作品)
4 批評会をする。	・作品を持ち寄り、キャラのイメージが姫路の魅力を的確に伝えているかを検討させる。	・作品を持ち寄り、姫路のイメージが的確に伝わるかを検討することができる。 [鑑賞](作品・対話)

- ・出合いの工夫
地域のよさを発信する「ゆるキャラ」のデザインについては、社会や総合的な学習で取り組んだ「地域学習」等で得た情報を参考に考えさせる。また、制作初期段階では、「受け手の要望(宣伝効果)」、「自分がアピールしたいこと(郷土のよさ)」の二つを結び付けて「ゆるキャラ」を売り出す宣伝企画会議を行わせる。このような地域への提案を前提にした制作を通して、デザインの伝達機能を理解させていく。
- ・発想・構想を引き出す工夫
イメージや発想を具体的な形で表現することを促すために次の手立てをおこなう。
①姫路の魅力に関する資料や意見等を集める。
②他県・他市等の「ゆるキャラ」に関する資料を集める。
③総合的な学習で収集した「地域の観光情報」等のデータを活用させる。
- ・技能を高める工夫
既存の「ゆるキャラ(城丸姫)」等の色彩やデザインの工夫や宣伝するための戦略・技法を研究・分析する。そして、その分析をもとに宣伝企画会議を開き、キャラ作成に役立てる。また、デザイン分野での基本テクニックである「単純化や強調」等の作品例を教科書等から示し、作成に活用させる。
- ・鑑賞(掲示)の工夫
完成した「ゆるキャラ」はセールズ・ポイントを作品に併記させ、廊下等に掲示する。また、オープンスクールの時や学校のホームページ等を通して「新ゆるキャラ」のデザインを紹介し、反応を集めるなどして、生活を豊かにするためにデザインを活用する意欲を喚起していくようにする。

表12 実践事例4 「水墨画を味わおうー水墨画の魅力を、制作や作品鑑賞を通して発見しよう」

実践事例4 実践事例4 美術 B鑑賞(1) → 図画工作 B鑑賞(1)		
題材名=「水墨画を味わおうー水墨画の魅力を、制作や作品鑑賞を通して発見しよう」 時間=2時間		
校種=中学1年生→小学校6年生 領域=鑑賞		
・伝統文化を味わう(鑑賞2h) → 味わってみよう、日本の美術(鑑賞2h)・墨から感じる形や色(絵2h)		
題材の目標=水墨画の作品鑑賞や簡単な作品制作に楽しく取り組み、水墨画の技法を学び、特徴を理解するとともに、日本の伝統的絵画の要素が、我々の普段の生活の中に多く生かされていることが分かる。		
・材料=和紙・新聞紙・墨・墨汁・筆、はがき ・用具=バケツ・とき皿・マット・ビニール袋		
児童・生徒の学習活動		
指導のポイント		評価規程[項目](手だて)
1 身近にある水墨画を探す。	・床の間の掛け軸、襖、屏風、観光ポスター等、身近にある水墨画の存在に気づかせる。	・身近にある伝統的な作品の存在や魅力を発見することができる。 [鑑賞](対話・ワークシート)
水墨画のよさや美しさを味わおう		
2 水墨画にチャレンジ。	・水墨画を描くときの注意や心がけを事前にしつかりおさえておく。 「道具を置く位置」「濃い墨と薄い墨の使い分け」「姿勢」「集中」「伸び伸びと描く大胆さ」	・墨の濃さや筆運びの違いを理解し工夫して表現することができる。 [創造的技法](活動・作品)
3 描いた水墨画と洋画との違いについて話し合い、水墨画の特徴を理解する。	・描いた水墨画と洋画を対比させ、その違いを話し合わせたり、掛け軸等の実物をじっくり鑑賞させることで、水墨画の特徴(線、面、余白、遠近の表現や、ぼかし・かすれ・とぼしなどの技法等について理解させる。	・水墨画の特徴(歴史・技法等)について理解する。 [鑑賞](対話・ワークシート)

- ・出合いの工夫
子どもたちは、姫路市書写の里・美術工芸館や姫路城・県立歴史博物館等における展示、さらに街のショーウィンドウや家の床の間に飾られている作品を通して日ごろから水墨画をよく目にしている。身近にある水墨画に対する関心や知識を高めると共に、日々の生活を豊かにするその魅力を再認識させるため、教科書等にある雪舟等の作品や家の掛け軸に描かれている水墨画を直に見せることで、そのダイナミックで精細な表現のよさと美しさを気づかせる。そして、その発見が今後の表現活動に結びつくように、鑑賞と表現活動との連携を意識しながら学習を進める。
さらに、導入では地味なイメージのある水墨画に興味を持たせ、実は楽しく親しみやすいものであることを実感させるため、地域の書道や日本画の先生をゲストティーチャーに招き、水墨画の手ほどきを依頼することで水墨画の楽しさを存分に味わわせることができる。さらに、自らの作品と洋画と対比させることで、水墨画の特徴を真剣に考えると思われる。
- ・鑑賞の技能を高める工夫
水墨画は中国から伝わったものであるが、歴史的変遷の中で我が国の独特な絵画表現の一つとなっている。空間表現、筆裁き等に特徴があり、墨の濃淡のみで対象を表現するという単純かつ高度な描画法である。本題材では、導入では教科書や郷土の作家の作品と洋画の違いを話し合わせることで、墨と和紙との関係や水加減(濃淡)、筆運び(スピード・強弱・リズム)の違いから、かすれ、にじみ、ぼかし・とぼし等の効果が生まれ、多様で魅力的な表現ができることに気づかせる。さらに、掛け軸等の実物をじっくり観察させることで描き直しが効かず一筆で仕上げていく緊張感を感じ取らせる。
和紙に墨で描く活動では、墨による表現に興味を持って楽しく取り組みそうな一筆描きの課題(竜・松・竹)を用意し、手本を写すという元来の水墨画の学び方の形式を取りながら、原作の感じや良さを表現を通して理解させる。

ポイントを例示するようにした。

実践事例では、豊かな自然や伝統文化が受け継がれている姫路市の特徴を生かした「姫路の風や光を生かして（造形遊び）」や「姫路の新ゆるキャラの制作（デザイン）」等の実践事例（表9から表12）を示すことで、各校において姫路オリジナルの小中一貫教育の教材開発が推進されることを期待した。

3 標準カリキュラムと活動理論との接点

「姫路市小中一貫教育標準カリキュラム図画工作・美術科編」においては小中一貫カリキュラムを編成することで、どの時期に、どの学年の子ども達が、どのような学習活動（題材）を展開しているかが見え、9年間を俯瞰することによって、教師が小中連続した指導をイメージしやすくすることを心がけた。そして主体的な表現や鑑賞の活動を通して、子ども達が表現及び鑑賞の方法などについての知識・技能をしっかりと習得できるようにすることを目指した。

さらに集約版（表1・2・3）が示すように小学6年から中学1年の学習の繋がりを、徐々に学習内容がスライドしながら学びが拡張するカリキュラムの構造になるようにした。

これは「姫路市小中一貫教育標準カリキュラム図画工作・美術科編」において、本カリキュラムが多くの子どもや児童・生徒の造形活動に活用され、小中学校の相互の子ども・教師の学びを拡張し、制度的な校種の「学習のカプセル」を破壊したいという意図があったからである。

この観点に立った時、本カリキュラムの構造は、「学習のカプセル化」の解消を図ろうとするエンゲストロームの「拡張的学習」理論に通じるものがあると思われた。

そこで、彼の活動理論と本カリキュラムの接点を考察することにした。

(1) 活動理論とは

エンゲストロームは「拡張的学習」を次のよう

に説明している。

「拡張的学習は、伝統的な学校教科書、発見の文脈、実践的応用の間の関係づけを含め、学習対象を拡張することによってカプセル化された学校学習の打破を提案する」²⁰⁾

彼が述べているように「拡張的学習」は現在、「中1ギャップ」や「学力向上・生徒指導充実」の対応に迫られ、子どもの学びを拡張する学習活動の創造に行き詰まりを抱えている教育現場に「学習のカプセル化」を打破するきっかけを与えられると思われる。このエンゲストロームの活動理論を従来の学校教育における学習活動の構造と対比して示すと図9のように捉えられる。

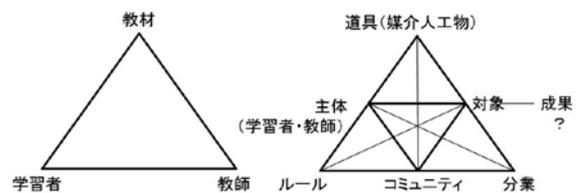


図9 従来の学習構造と拡張的学習構造²¹⁾

まず、従来の教室で行われてきた学習構造では、教師は学習者に教育内容を習得させるために学習者が興味・関心を示し、且つ、内容伝達効率のよい教材を選定する。その管制下の指導—援助を受けながら学習者は、規定の教材と向き合い学習活動を展開していく（図9左）。

この従来型に対して彼は学習者が主体として日々の生活（現実世界）に学習対象（課題）を見だし、教師や地域住民等と連携して多様な道具（媒介人工物）、課題解決法を探求的に学ぶ学習活動を示した（図9右）。この学習では成果（解）はオープンエンドの活動が多く、主体は継続的に課題解決を探求する。その学びを三角形下部を構成するルール・コミュニティ・分業といった社会的媒介物が支えることで学級や学校という枠にとどまらない学びのネットワークを構築していくとされる²²⁾。このような学習活動をエンゲストロームは「拡張的学習」の本質を以下のように説明している。

「学習活動の本質は、当該の活動の先行的形態の中に潜在している内的矛盾を露呈しているいくつかの行為から、客観的かつ文化—歴史的に社会的な新しい活動の構造（新しい対象・新しい道具などを含む）を生産することである。学習活動は、いくつかの行為群からひとつの新たな活動への拡張を習得することである」²³⁾

この「拡張的学習」は主体である学習者等に学びの拡張の仕方を習得させる学習であるといえる。この学びの主体性は小中一貫教育がめざす「学習意欲や学力向上」の基盤になると思われる。

彼の活動理論を研究し、その著書「拡張する学習」の翻訳者でもある山住勝弘は「拡張的学習」の特徴を以下の3点に整理している。

- ① 「拡張的学習」は学習の必要を生じさせる問題の根源を問い、学習の対象を拡張させる。
- ② 「拡張的学習」は、学習者が与えられた問題の文脈に疑問を持ち、その拘束から脱し、問題の「文脈の文脈」を拡張させる。
- ③ 「拡張的学習」は与えられた情報を乗り越え、何か新しいものごとをつくり出す。それは自らの活動の新しい文化的パターンを創造する²⁴⁾。

以上の山住の記述から「拡張的学習」は、小学校・中学校という縄張りの中で教科書を完全習得させるため個々がバラバラ主体としてバラバラの一貫性のない教育内容を機械的に繰り返し覚えさせられる学習行為を学習者の主体の学習活動に引き戻す契機になると思われる。また、その活動が多様な他者とのネットワークを構築し、その他者へのまなざしが、異校種へ拡大して、子ども・教師同士の「接続」へと展開していくような、小・中学校の異なる文化の溶解を促す転換点にもなると考えられる。

(2) 標準カリキュラムと活動理論との接点

山住は2000年代にエンゲストロームの「拡張的学習」システムが、図9の単一の活動システムから「境界を横断する水平的運動」として人間の発達段階を問い直し、図10のように複数の活動システムが相互に作用し合う「相互作用しネット

ワークする活動システム」に発展させていることを指摘する²⁵⁾。

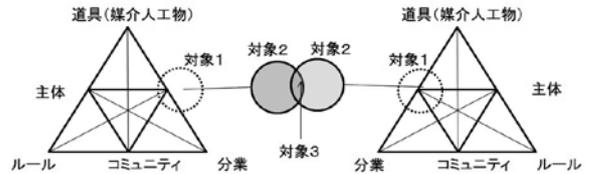


図10 活動が相互作用するシステムモデル²⁶⁾

そして、山住はこの活動システムを以下のように解説している。

「対象1から両者の「対話」を通して対象2に拡張し、そして、双方の対象は近づき部分的な重なり合うことになる。この越境的な「交換」において新しい対象3が立ち現れていく。この『第3の対象』は新たな『変革の種子』を生み出していく」²⁷⁾



図11 従来の小中における造形活動の関係

この組織の枠を越え、子ども・教師・親・地域等の学校を取り巻く多様な人々の間で生まれる「相互作用しネットワークする活動システム」を持つ新たな「拡張的学習」は、子どもの学習活動の拡張を促進すると共に、図11のように作品展等での受賞を目指すような「カプセル化された各学校の造形活動」を破壊する。そして図12のように児童・生徒が新たな地域文化を協働で生み出そうとする「学校の制度的境界を越境した異年齢の集団的学習活動という新たな学びのネットワーク」を形成するきっかけになると考える。

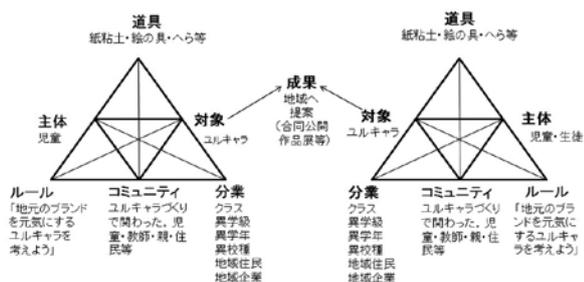


図12 小中一貫教育で目指す造形活動

また、「拡張的学習」においては「スプリングボード」という状況を重視している。エンゲストロームは次のように説明している。

「促進的イメージ、技術、ないし社会的－会話的布置であり、ある前の文脈における鋭い葛藤ないしダブルバインド的な特徴から新しい拡張的移行的活動の文脈にあやまって置かれたもの、あるいは移植されたものある」²⁸⁾

すなわち、「スプリングボード」は苦境にあるとき突然顕在化したイメージ・技術・出会いなどであり、それ自体は課題解決のきっかけを与えるとされる。小中一貫教育では「小5・中1段階の段差」・「中学校での学習や生活への不適応」・「教師の縄張り意識」等であると考えられる。

別視点から見ると「スプリングボード」となっている小中一貫教育の抱える課題の解決に「拡張的学習理論」は役立つ可能性があると思われる。

4 結 語

文部科学省が出した「小中一貫教育制度の導入に係る学校教育法等の一部を改正する法律」についての通知では、義務教育学校の修業年限並びに前期課程及び後期課程の区分について以下のような留意事項を示している。

- ① 小中一貫教育においても、子供の成長の節目に配慮するような教育課程の工夫が重要である。
- ② 義務教育学校は9年の課程を前期6年、後期3年に区分することとしているが、義務教育学校においては、1年生から9年生までの児童・生徒が一つの学校に通うという特質を生かし

て、9年間の教育課程において「4-3-2」や「5-4」などの柔軟な学年段階の区切りを設定することも可能である²⁹⁾。

この2点に先行して、姫路市小中一貫教育標準カリキュラムは、6・3制の教育課程を編成しつつ、義務教育9年間を前期4年・中期3年・後期2年にし、子どもの発達段階を重視したカリキュラムの構成となっている。また、全体構想版(表4)では、各期の「育てたい力・指導のポイント」が全教科で明確に示してあるため、9年間の縦の系統性と各教科・領域の横の繋がりを意識できるようになっている。すなわち、「拡張的学習」の下層部のルールと分業に繋がる要素がカリキュラムの中に構成してあるといえる(図12)。

ただ、カリキュラムの課題点を平成25年1月から2月に姫路市の全教職員(2301名)を対象とした「学力向上に係る教職員意識調査結果」が示している。すなわち、小中一貫教育の必要性に関して5点を「強く思う」と設定したアンケートにおいて、「9年間を見通した指導重視すること」という問いに関して一般教職員は「小学校4.34・中学校4.23」で「どちらかと言えば思っている」と高評価であるが、「枠を越えて連携を図っていますか」という問いには、一般教職員は「小学校3.67、中学校3.55」で「どちらとも言えない」という状況であった。これは管理職の平均4.5とかなり開きがある³⁰⁾。

この状況から、9年間を通した学びの実現の必要性は理解しているものの、小中一貫教育の構想や手法に関して戸惑う姿が見受けられる。

本研究は児童・生徒の学びの拡張を目指す小中一貫教育標準カリキュラムの構想する上で、相互の学びの繋がりの把握が容易になるなど、エンゲストロームの活動理論がその基礎理論として役立つ可能性を探る基礎的研究である。したがって、カリキュラムの中期において、「拡張的学習」を構成する素要素(「スプリングボード」・「モデル」・「マイクロコスモス」・「活動サイクル」等)が、児童・生徒の学習活動とどのような関係性を持っているのか「図画工作科・美術科編カリキュラム」

で示した実践事例等の検証を通して考察する必要があると考える。今後、これを研究課題とし、取り組んでいく。

註

- 1 文部科学省, 2015年, 「小中一貫教育制度の導入に係る学校教育法等の一部を改正する法律について(通知)」
http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/1360758.htm (2015年9月2日取得)
- 2 文部科学省初等中等教育局, 2014年「小中一貫教育等についての実態調査の結果」, p.46, http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/ikkan/_icsFiles/afieldfile/2015/05/08/1357575_01.pdf (2015年8月21日取得)
文部科学省が全都道府県, 全市区町村(1,743箇所)と小中一貫教育を実施している国公立小・中学校(1,130件)を対象に, 実態調査を平成26年5月1日時点で実施。
- 3 中央教育審議会初等中等教育分科会中一貫教育特別部会, 2014年, 「小中一貫教育の制度化及び総合的な推進方策について(審議のまとめ)」, 文部科学省, p.8
- 4 同上
- 5 文部科学省初等中等教育局, 前掲書, p.22
- 6 同上
- 7 中央教育審議会初等中等教育分科会中一貫教育特別部会, 前掲書, pp.4-6, 文部科学省では以下の点を小・中学校の接続要求の背景としている。
・義務教育の目的・目標の一体的な捉え方
・教育内容や学習活動の量的・質的充実への対応
・発達の早期化をめぐる現象への対応
・「中1ギャップ」への対応
審議のまとめでは, 中1ギャップの背景となる小・中学校間の教育活動の過度な差異の例として以下の事項を指摘している。
「授業形態の違い」「指導方法の違い」「評価方法の違い」「生徒指導の手法の違い」「部活動の有無」
・地域コミュニティの核としての学校における社会性育成機能の強化の必要性
- 8 姫路市教育委員会, 2014年, 「姫路市の進める小中一貫教育-小中一貫でひらくこどもの未来」, p.2
- 9 天笠茂, 2013年, 「なぜ小中連携教育がもとめられるのか」『教育研修2013年12月496号』, 教育開発研究所, p.19
- 10 ユーリア・エンゲストローム, 2013年, 『ネットワークする活動理論-チームから結び目へ-』, 新曜社, p.145
- 11 上書, p.146
- 12 姫路市教育委員会学校教育部学校指導課, 2011年, 『姫路市小中一貫教育標準カリキュラム(第2版)』, 姫路市教育委員会, p.2
- 13 同上, 文章は姫路市がめざす小中一貫教育の文章を筆者要約したもの。
- 14 前掲書, 姫路市教育委員会, pp.4-9の記述を筆者が要約
- 15 姫路市教育委員会学校教育部学校指導課, 2011年, 『姫路市がめざす保幼小連携・小中一貫教育-つなげよう子どもの育ちと学び-パンフレット』, 姫路市教育委員会
- 16 同上
- 17 前掲書, 姫路市教育委員会学校教育部学校指導課, 『姫路市小中一貫教育標準カリキュラム(第2版)』, p.6
- 18 第1回姫路市小中一貫教育カリキュラム作成委員会全体会配付資料
- 19 同上
- 20 Engeström, Y, "Non scolae sed vitae discimus: Toward overcoming the encapsulation of school learning. Learning and Instruction", An International Journal vol.1,1991, p.256
- 21 ユーリア・エンゲストローム, 1999年, 『拡張による学習-活動理論からのアプローチ-』, 新曜社, p.249を参照に作成。
- 22 ユーリア・エンゲストローム, 2013年, 『ネットワークする活動理論-チームから結び目へ-』, 新曜社, 2013年, p.46. の記述を参考に記述。
- 23 前掲書, ユーリア・エンゲストローム, 『拡張による学習-活動理論からのアプローチ』, p.141
- 24 山住勝, 2004年, 『活動理論と教育実践の創造』, 関西大学出版部, p.123
- 25 上書, p.94
- 26 同上, 図の原文は, Engeström, Y. "Expansive learning at work: Toward an activity theoretical reconceptualization" Journal of Education and Work, 2001, p.136
- 27 前掲書, 山住勝弘, p.94
- 28 前掲書, エンゲストローム, 『拡張による学習-活動理論からのアプローチ』, pp.285-286
- 29 前掲書, 文部科学省, 「小中一貫教育制度の導入に係る学校教育法等の一部を改正する法律について(通知)」
- 30 姫路市教育委員会, 2013年, 「平成24年度 学力向上に関する児童生徒意識調査結果回答結果集計 及び学力向上に係る教職員意識調査結果」, pp.20-22

(函館校教授)